

NHK受信料の
相談は、支部長
または事務所に

厚木爆同

【発行】
厚木基地爆音防止期成同盟
発行責任者 石郷岡 忠男
事務所 大和市桜森3-5-3
フロント1F
TEL 046-240-7450
FAX 046-261-5615
bakudou@kanagawa.email.ne.jp



厚木基地はP1の全国的な拠点になっている

P1に厳し目を!!

5月13日の東京新聞に、概ねこんな内容の記事が載りました。「2020年までに運用を始める予定の羽田空港新飛行ルートのほぼ直下に、上皇ご夫妻が仮住まいされる高輪皇族邸があることが分かった。ルート下では最大70〜75dBの騒音があり、『窓を開ければ屋内でも意思疎通に支障が出る。静かにくつろげる環境とはほど遠い』と識者が指摘する」。

アレッ、厚木基地周辺に暮らし、何十年も騒音に苦しめられている私たちにとっては、何を今更ということではありませんか。

昨年、米空母艦載機の岩国基地移駐により騒音レベル100dB以上の

厚木基地から 全国に配備

最新鋭哨戒機P1は、機体の尻が針状に突き出たジェットエンジン4発の飛行機です。P1は厚木基地だけに配備されていた純国産機で、海上防衛の主力。昨年12月には韓国軍艦艇からレーダー照射を受け、両国間に緊張をもたらした機種です。AI技術で作戦行動し、特に潜水艦攻撃能力は世界トップ級とされます。2013年に厚木基地で試験運用開始。15年から部隊運用を始めました。既に35機分が予算計上され、現在22号機まで配備されています。厚木基地で訓練をし、今年度鹿屋基地に配備するのを皮切りに他基地への配備が予定されています。

更には厚木基地の部隊増強を図る計画もあるのでしょうか。いずれにしても早朝から飛行を始め、

基地周辺の上空を繰り返し旋回して、金属音を交えた騒音をまき散らし続けています。



P1は住宅近くを低空で飛び、騒音も大きい

P1は 通知違反

厚木基地への自衛隊移駐に関して、大和市に文書が残されています。1970年、厚木基地は飛行場の大部分が米軍から返還され、日米共同使用の方針が打ち出されました。市は「都市化の中の基地は好ましくない」との理由で自衛隊移駐反対の意見書を提出しましたが71年6月、厚木飛行場の一部を自衛隊に移管することが決定されました。同年12月20日防衛庁(当時)は大和市に対し、海上自衛隊の移駐を実施する旨通知してきました。その「厚木飛行場の海上自衛隊による共同使用について」には、何項目かの努力、配慮事項が記されていますが、その中には「海上自衛隊も騒音軽減規制措置を厳守すること」「ジェットエンジン」を主たる動力とする飛行機(ターボプロップ機は除く)は、緊急や

むを得ない場合以外使用しないこと」の項目もあるのです。つまり、現在騒音をまき散らしているP1はこの通知に違反しているのです。私たちは、P1の運用に厳しい目を向け続けなければなりません。(情宣部 貝津正孝)

基地視察に 参加を

厚木爆同では、次の日程で基地視察を行います。

詳しいことは、別紙チラシをご覧ください。参加申し込みは各支部長にお願いします。

月日 10月9日(水)

視察先 米海兵隊キャンプ富士
基地、陸上自衛隊東富士

演習場、陸上自衛隊駒門
駐屯地

参加費 2500円

支部から こんにちは!

大和南第2支部 支部長 瀬野壽伸
大和南第2支部は会員180

世帯程度です。支部長、副支部長2名、班長22名で活動しています。3ブロックに分けて支部長、副支部長が担当しています。今年に入り支部長、副支部長が交替しました。軽い気持ちで支部長を引き受け、後悔していません。集金、会報の配布だけで

支部長、副支部長が交代、 組織拡大に取り組む

時、岩野前支部長が忙しい中会員に声をかけ、6名の代議員を選出でき、面目が保てました。

会員が段々高齢化していく中、会員も徐々に減っています。私た

ちは会費を納めるだけでも、厚木爆同運動に参加しています。会員も高齢化し、動員も難しくなっていますが、爆音のない静かな空を取り戻すため、支部役員と相談しながら支部会議の開催、組織拡大に取り組んでいます。



熱心な議論をする支部会議

基地交付金をアメとムチに使う政府に怒り

国民には負担と犠牲

政府は昨年、厚木基地に対する基地交付金を使って爆音が減少したことをアピールし、自治体がオスプレイの飛来を容認したと思わせるようなことを行いました。とても許せるものではなく、怒りを感じています。

アメとしては、厚木基地をオスプレイの「訓練拠点基地」として認めて、「再編関連訓練移転等交付金」1095万円を交付してきました。一昨年、陸上自衛隊の宮城県王城寺原演習場で行われた日米共同訓練に参加したオスプレイが厚木基地に数日間滞在し、その間訓練も行ったということが理由とされています。



オスプレイの飛来に出された交付金は受け取るな

厚木爆同としては2月15日、次のような趣旨で大和市、綾瀬市に「再編訓練移転等交付金」の支給を受け入れられないよう申し入れを行いました。

申し入れ書

今回の交付金を受け入れることは日米共同訓練に使用する米軍オスプレイの厚木基地飛来を認めることになり、これ以降のオスプレイ飛来と厚木基地の強化につながり、基地被害を拡大することになると危惧しています。厚木基地をオスプレイの「拠点飛行場」としてはなりません。オスプレイは墜落事故が相次いでおり、住宅密集地の中にある厚木基地に飛来することは、住民にとって大変危険なこと。オスプレイが住宅地上空で、自粛するとされている垂直離着陸変換モードで飛行しているところが頻繁に見られており、住民の不安は増大しています。住民の不安と危惧をなくし、平和で安全な空を取り戻すため、「再編訓練移転等交付金」の支給を受け入れられないよう申し入れる。

一方、ムチとしては特定防衛施設周辺整備調整交付金を約8400万円削減してきました。昨年、米軍が厚木基地で着陸訓練を行わなかったことを理由としています。金額の根拠は示されていません。米軍機が厚木基地で着陸訓練を行わなかったことは過去にもありましたが、そのことを理由に交付金を削減された例はありません。今回は異例の措置です。これは、艦載機の岩国基地移駐により厚木基地の爆音が

減少したことを、国がアピールするためのものと思えません。この二つの交付金については、厚木爆同会員の市議会議員が大和市、綾瀬市両議会の3月議会で質問し、市の姿勢を質しました。

米軍には思いやり

一方で国は昨年米国からの要求に応

低周波騒音対策強化を

一般に、周波数が100ヘルツ以下の音を低周波音と呼んでいます。人間の聴覚では感知できないような低い周波数は、住宅などの建物や建具のがたつきとして現れたり、また、人体への種々の影響という形で表れています。

低周波騒音の人体被害の最も代表的なものは、騒音が気になるため防音対策をしたが改善しない・耳が腫れて頭が痛い・吐き気が止まらず目がちかちかする・圧迫感を感じ押しつぶされるような感覚を覚える・いつも心が休まらない・家を離れると症状が改善する・圧迫感を感じるなどです。これらの症状を発症することは少なくありません。

近年、ヘリコプター等の回転翼機とプロペラ機による低周波音が注視されてきていますが、健康影響を評価する指標は未だ整備されていません。

八王子市やあきる野市の住民から「夜に低くて重い騒音が迫ってきて、窓が小刻みに震える。墜落しないかと怖い」「下から突き上げられるような揺れを感じ、気分が悪くなる」などという訴えがあります。これは横田基地周辺で航空機騒音が



ヘリコプターの低周波騒音も解消が必要

えて米国製の戦闘機F35を105機、1兆2千億円も出して買うことを決め、在日米軍に対する思いやり予算では、毎年二千億円近くも使っています。沖縄県では辺野古の米軍基地建設を強硬に進めています。国民の声を聞かず、国民の生活を守ろうともしない一方で、米国の要求に対しては即座に応えるという国のやり方に大きな憤りを感じます。

遠くまで響き、遮断されにくい。沖縄県の調査では機体構造が同じ米海兵隊のMV22型オスプレイの通過時、屋内の振動を起し継続時間が他の回転翼機よりも長かったと言われています。大和市の基地対策特別委員会では議員の質問要望に応じて、低周波の調査研究の取り組みを強めて行くとの回答がありました。低周波騒音の被害をなくす対策の強化が必要です。

(特別執行委員 大波修二)

静かな空、安全な生活を！
爆音訴訟勝利！

8.31 神奈川集會に

参加を

日時 8月31日(土) 15時30分
会場 やまと公園
(大和駅から小田急線に沿って南に徒歩3分)

内容 辺野古の海を埋めないこと、オスプレイの飛来反対、自衛隊の装備増強しないこと、憲法九条を守ることを訴え、集会とデモを行います。

主催 厚木基地爆音防止期成同盟、第五次厚木基地爆音訴訟団、原子力空母の母港化に反対し基地のない神奈川をめざす県央共闘会議、神奈川平和運動センター

お詫びと訂正

前号(304号)の本部役員紹介欄で、特別執行委員の斉藤昌民さんの所属が「五次書記長」となっていました。正しくは「五次原告団事務局長」です。お詫びして、訂正します。